

教科 【 保健体育 】

■生徒の状況

- ・運動に対し積極的に取り組む生徒が比較的多い。
- ・水泳の実技については、苦手意識から見学をする生徒がどの学年も多い。
- ・自主的に考え行動のできる生徒がやや少ない。

■指導における課題

- ・生徒に効果的に学習用端末の活用。
- ・自分で考え行動できる生徒の育成。
- ・男女共習の利点を生かす指導。

■授業革新推進に向けての具体的な方策

視点1 板橋区授業スタンダードの徹底、及び板橋区授業スタンダードSの取組	・生徒が自己の課題に気づき、その課題改善に向けて考え、工夫して取り組むことができるように学習用端末を有効活用する。 ・指導する内容と、支援する内容を教師が使い分け、生徒が自ら選んで学習できる学習場を増やす。
視点2 ICT環境の適切な維持と活用 個別最適な学び・協働的な学びの実現	・授業を進めるにあたり、ICT支援員に端末の有効活用について助言を受けるなどし、より効果的に活用していく。 ・個々の学習の到達度に応じて、個への支援や指導方法の工夫を行うなど、指導の個別化をめざす。 ・グループごとで課題や課題の改善方法について共有させ、同じ課題をもった生徒の考えを参考にしたり、その課題をすでに改善した生徒から助言をもらうなど、学び合う場面を設定する。
視点3 総合的な学習の時間との連携	・セーフティ教室で行った「ネットリテラシー」に関する探究活動と、保健で行う「社会性の発達と自立」「自己形成」などの単元を結びつけ、ネット社会の中で生きる現在の生徒が、人や自分を傷つけることなく、自己形成を図っていくことができるようつなげていく。 ・オリンピック、パラリンピック教育と体育理論「国際的なスポーツ大会の意義と役割」や「人々を結ぶスポーツ」とを関連付け、他国の習慣や文化について調べたり、話し合ったりする中で、人種、性別、障がい、年齢を超えて違いを認め、受け入れる教育につなげていく。